

2021

Volume2

# NAGAOKA INSIGHT



 **NAGAOKA**  
INTERNATIONAL CORP.

株式会社ナガオカ

2021年3月22日



# NAGAOKA INSIGHT

Volume2.

世界のプロピレン需要とナガオカ

## エネルギー事業

本紙 Volume1 でご紹介したプロピレンの需要は、世界的に年々高まっております。今回は、世界のプロピレン需要と当社の取り組みについてご紹介いたします。

## 世界のプロピレン需要の拡大

幅広い用途で使用されるプロピレン（プロピレンについては「NAGAOKA INSIGHT Volume1」参照）の需要は年々高まってきております。経済産業省の資料では、2017年におけるプロピレンの世界需要量は年間約99百万トンでしたが、2023年には2割増にあたる120百万トンに達する見込みです（新型コロナウイルスパンデミック前の予想値です）。



単位：百万トン

とりわけ、経済発展が目覚ましいアジア地域において、プロピレン需要の高まりが顕著です。2023年には、世界総需要の約6割を占めると予測されております。

出典：「世界の石油化学製品の今後の需給動向〔対象期間：2010～2023年〕調査（経済産業省）「総論」のデータを基に、当社でグラフを作成（2021年3月利用）

## プロピレン需要とナガオカ

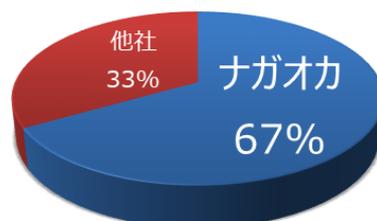
クリーンエネルギーであるLPGを原料として効率的にプロピレンを製造できるUOP LLCのOleflex™\*（\*Oleflex™はUOP LLCの商標。UOP LLCおよびOleflex™の詳細については「NAGAOKA INSIGHT Volume1」参照）は、世界で高まるプロピレン需要をサポートし続けております。

Oleflex™の歴史は古く、1990年代にプラント建設・運営が開始され、2020年までに世界各国に45のプラント\*が建設・計画されました。\*2020年12月までの納入実績による当社調べ

当社はOleflex™のプロセスオーナーであるUOP LLCから正式に認証されたサプライヤーとして、30年余りOleflex™のインターナル（当社製品）供給に携わってまいりました。

先に述べた45プラントの内、当社は約7割のシェアを獲得しております。また、1990年代から当社のインターナルをご利用頂いている顧客の約8割から、継続的に製品の取替・メンテナンス指導の依頼を頂き、プロピレンの生産に寄与し続けております。

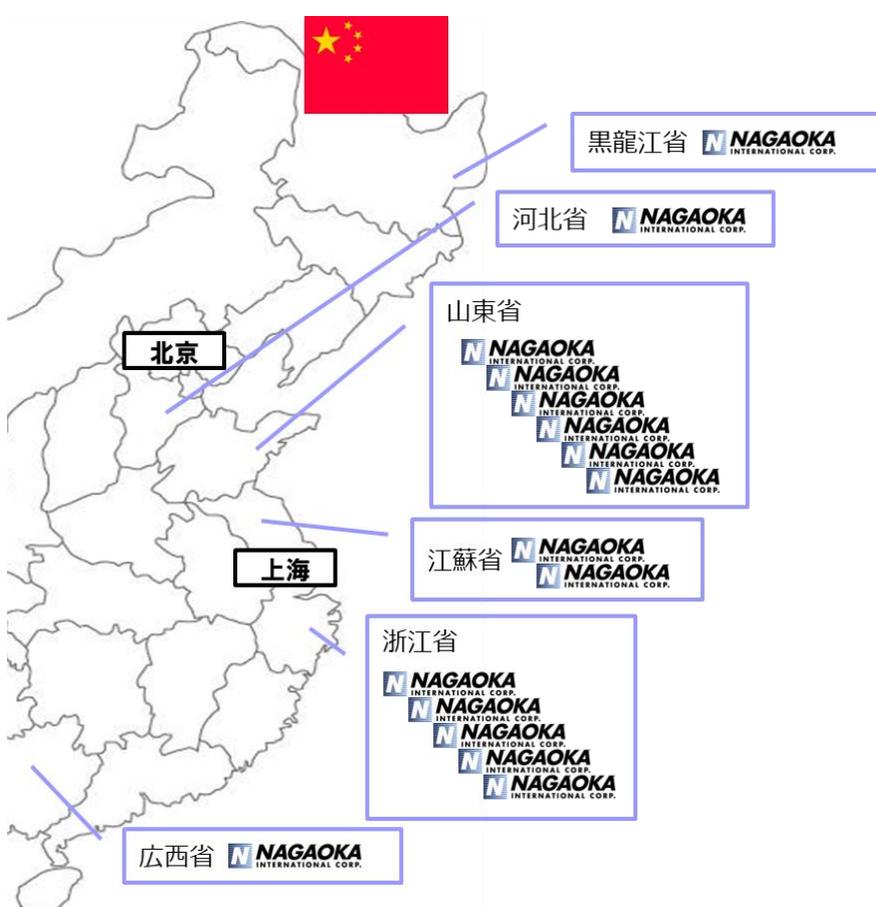
Oleflex™ インターナルの納入割合  
1990年～2020年



## 拡大する中国市場での過去の実績について

高まる中国国内のプロピレン需要、進行する国家戦略（第 13 次 5 年計画、“135 計画\*”）も相まって、中国では 2012 年から 2020 年末にかけて Oleflex™ の技術が使われたプラントが 25 か所以上計画されました。以下の地図は当時計画・建設されたプラントの内、当社が納入したプロジェクト数を表示しております。

\*135 計画：2016 年 3 月に中国北京で開催された全国人民代表大会(全人代)で採択された第 13 次 5 年計画(2016 年～2020 年)。「革新、協調、グリーン、解放、共有」の 5 つを国家発展のキーワードに掲げられており、結果的に石油化学分野ではエネルギー効率・環境配慮型の次世代型プラントやコンビナート建造計画が盛んに行われました。



当社は、計画プラントの 25 か所の内、6 割超に亘る 16 プラントに向けてインターナルを受注・納入を実現して参りました。近年では、脱水素の過程で精製される水素も、新エネルギーとして注目されており、プロピレン・プラント新設需要が改めて高まっております。

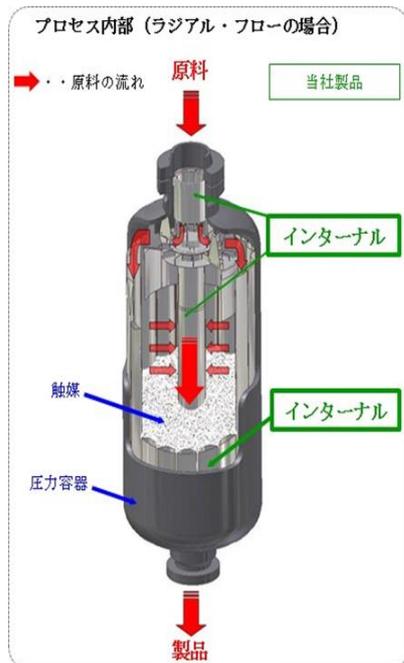


図 1 一般的な反応塔圧力容器とインターナルの一例

当社製品であるインターナルは、各種プラントの心臓部とも言える反応塔や合成塔などの圧力容器の内部装置 (図 1) です。過酷な高温・高圧条件で使用されるインターナルは、高い製品品質が求められます。(インターナルの詳細は、以下の URL を参照願います : <http://www.nagaokajapan.co.jp/energy/>)

当社は、30 年培った品質管理と技術力で納入後の安定したプラント運転に貢献して参りました。その実績と成果が、中国における継続した新規案件獲得を下支えしております。





#### 最後に

当社が 30 年来製作・納入し続けている Oleflex™ インターナルが、世界の脱炭素社会の実現のために求められるエネルギー産業革新に貢献し続けていることを誇りに、持続可能な社会の実現と発展に寄与し続けて参ります。

